

JOMF 派遣医師便り (2012. 10)

◆シンガポール◆

シンガポール、韓国、日本の医療に

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールのある医学雑誌に韓国の医療制度についての記事が載っていました。その中には韓国国民の自国の医療制度に対する満足度が高いことが記されていました。残念ながら、その理由ははっきりとは述べられていませんでしたが、この記事を元に今回は医療について韓国、日本、シンガポールを比較してみたいと思います。

【国民医療費】

GDP に対する国民医療費の比率は OECD（経済協力開発機構）加盟の先進 34 カ国の平均が 9.5% であるのに対し、韓国は 7.1% と低くなっています。ちなみに日本は 9.5%、シンガポールは大変低く 4% です。

【医師、看護師の数】

韓国の医師、就業している看護師の数も OECD の平均より低く、OECD の平均が人口 10 万人に対しそれぞれ、310 人、926 人であるのに対し、200 人、436 人となっています。看護師は OECD 平均の半分にも達していないこととなります。ちなみに日本はそれぞれ 220 人、700 人弱、シンガポールは 202 人、430 人です。ただ、韓国や日本では同様に実際には就労していない看護師の数が免許保持者の 3 分の 1 ぐらい、シンガポールでも 20% 近いとのことです。

【平均寿命、乳児死亡率】

こうした低い医療費、医師、看護師の数にも関わらず、韓国の平均寿命は 80.3 歳、乳幼児死亡率は出生 1000 人当たり 3.5 人と大変優れた数字を示しています。ちなみにアメリカは平均寿命 78.2 歳、乳幼児死亡率は 6.5 人です。日本はそれぞれ 83 歳、2 人、シンガポールは 81.8 歳、2.0 人です。

記事には韓国の公的保険制度の概略についても述べられていました。強力な経済がなければ公的保険制度は成立しえないと考えられがちですが、実はそうではないようです。韓国では 1977 年に労働者に対して、公的保険制度が施行されました。当初は大企業のみが対象であったため加入率は 30% ぐらいでした。この時の韓国の一人当たり名目 GDP は 1034

米ドルでした。そして、韓国経済の成長とともに公的保険は 1989 年までに全国民に広げられましたが、その時でも一人当たり名目 GDP は 5438 米ドルに過ぎませんでした。経済が十分に大きくなって、こうした制度を実施したのは政府の強い姿勢があったからということです。その背景には北側が国民すべてに医療を無償で提供するという政策を掲げていたことに対抗する意味があったと伝えられています。

現在、韓国の一人当たり名目 GDP は 2.3 万ドルとなっています。(日本は 4.0 万ドル、シンガポールは 5.7 万ドル)。

その医学雑誌の記事では、韓国の国民保険料が比較的安価に抑えられている理由については、医療側の負担も大きいと伝えています。引いてはそれは患者さんの診療時間にも影響しているようです。韓国の医師は一人当たり年間平均 6000 人の患者さんを診るそうですが、これは OECD 平均の約 2 倍に当たるそうです。そのため、一人当たりの診察時間も 10 分以下となっています。3 分診療と揶揄されてもいるそうです。ある調査によればこれに対しては 52% の人が不満を持っているとのことでした。しかし、現行の医療制度のもとで、医療費支出を低く抑えるには、診察時間を短く、医師数を低く抑えざるを得ない状況だということです。

韓国も少子高齢化が急速に進んでいる国です。30 年後には労働者の平均年齢が 50 歳に達するとも言われます。このため、医療費も急速に増大しています。医療費の増大のため、保険料を上げる必要性が議論されてもいるようです。

さて、経済的には医療産業は世界的に見ると自動車産業 (約 1.6 兆ドル) の約 3 倍 (約 4.7 兆ドル) に匹敵する大きさがあるといわれています。

韓国はこれを鑑みて、医療ツーリズムに積極的に乗り出しています。まだまだ、発展途上ではありますが、現時点で年に 8 万人の外国人患者さんが韓国を訪れています。中でも、美容整形の分野に訪れる患者さんが多いようです。韓国政府としてはロシアや中国から多くの患者さんを受け入れようとしています。また、世界市場に進出しようとする製薬会社をあと押ししたり、ノーベル賞級の研究を推し進めるなどの努力も見られています。

政府主導のもと、外国人患者さんの数が年に 100 万に達しようとしているシンガポールに比べてはまだまだ、少数ですが、今後、さらに増加が見込まれています。

また、伝統的な韓医学も尊重され、統合医学として日常診療に大いに貢献しているとのこと。韓医の数は 1.2 万人 (医師数は 9.2 万人) ほどです。この伝統的医学を尊重する姿勢はシンガポールとも似ています。シンガポールは中国伝統医学が盛んであり、中醫師は 2400 人 (医師数は 1.1 万人) となっています。

こうした独自性を生かしながらも先進医療を導入し、外国からの患者さんを招来し、医療をサービス産業として成熟させることが、高齢化で増大する医療費のひとつの解決策となるのではないかなと思えます。